



TRICK HOUSE

九里祭「錯視」の展示

8月31日・9月1日 2年1組 山口 曜

今年の展示テーマは「錯視」が選ばれました。錯視とは、目の錯覚つまり脳でおこる錯覚のことです。錯覚によつて実際のサイズより異なる大きさや長さに見えます。錯視は意外と幅広くあり、テーマ決定後に展示内容がまとまらず、制作まで予定より時間がかかりつてしましました。例年に比べて少し遅いスタートでしたが、真面目に準備してくれた委員のおかげで二日前に無事完成させることができました。

展示教室では、様々な錯覚を大判用紙で紹介し、多くの展示物を作制作しました。ピエロが両手を伸ばしている大きな看板を置き、教室内には奥行きを利用し撮影したトリック写真や不可能立体の小型模型を置きました。有名なペンローズの三角形などの不可能立体は、ある位置から片目で見ると現実にはありえない立体に見えます。また、メイン展示ではエイムズの部屋を制作しました。この部屋は、天

面もありました。また、今年も校内消しゴムはんこスタンプラリーを実施しました。さらに今年から展示教室に消しゴムはんこでしおりを作れるコーナーを置きました。どちらも多くの方が実際に体験して喜んで下さったので良かつたです。

反省しなければならない所もありましたが、楽しく中身の詰まつた展示になつたと思ひます。図書館には錯視の本も多く置いてあります。また制作したエイムズの部屋も置いてあります。興味のある人は是非足を運んでみて下さい。

いる人がたとえ正解、すなわち何が見えるべきかを知つていたとしても容易に起こります。また、子供でも大人でも同じように錯視を体験できるのです。

錯視にもさまざまな種類のものがあるが、ここでは、特に錯誤の強いもの「幾何学的錯視」について紹介します。これは、線によって構成された抽象的模様で作られた錯視です。例えば、「直線が曲がって見えるもの」や「平行線が直線上にあるべきものがそうでなくなるもの」などがあ

私たちが日常で培った直角に交わる二線の視線と言います。

私たちが日常で接する物事は直角に交わる二線を含んだものがたくさんあります。ものを見るることは、あまりにも当たりやすく、あまりにも当たり前にできるので普段は気にもとめないでしょう。

しかし、錯視という興味深い現象に触れると、物を見る仕組みについて興味がわいてくるのではないかでしょう。

The image consists of five distinct horizontal bands. Each band contains a series of parallel diagonal lines sloping upwards from left to right. The spacing between these lines varies slightly across the different bands.

井や床が斜めに傾いたゆがんだ部屋で、壁の穴から片目で見ると、部屋の中の壁の同じサイズの人が大小異なった大きさに見えます。

展示教室の装飾では、ピエロの大型を吊るし、壁の下部分を白黒の市松模様で装飾して不思議な雰囲気をだしました。宣伝担当は、「錯覚!! 不思議」というイメージからピエロの格好をし、校内を歩いて宣伝しました。子供から人気が出ると思われましたが、意外にも怖がられたりもしました。しかし、「ディアボロ」という大道芸も加えた宣伝は子供に大人気でアンコールをされる場面もありました。

また、今年も校内消しゴムはんこスタンプラリーを実施しました。さらに今年から展示教室に消しゴムはんこでしりおりを作れるコーナーを置きました。どちらも多くの人がありましたが、楽しく中身実際に体験して喜んで下さつたので良かったです。

反省しなければならない所もあります。興味のある人制作したエイムズの部屋も置いてあります。また、図書館には錯視の本があります。

「直線上にあるべきものが直線上に見えなくなるもの」などがあ

錯覚とは、感覚的に異常はないが、実際と異なる知覚を得てしまう現象のことと言います。特に、目で見るときに起きる錯覚を錯視と言います。

錯視は、物の形や大きさ、色、動きなどの見かけ全般にわたってあらわれます。見ている人がたとえ正解、すなわち何が見えるべきかを知つていたとしても容易に起ります。また、子供でも大人でも同じように錯視を体験できるのです。

錯視にもさまざまな種類のものがあるが、ここでは、特に錯誤の強いもの「幾何学的錯視」について紹介します。

これは、線によって構成された抽象的模様で作られた錯視です。例えば、「直線が曲がつて見えるもの」や「平行線が平行に見えなくなるもの」、

私たちは日常で接する物事は直角に交わる二線を含んだものがたくさんあります。ものを見るとは、あまりにも当たりたやすく、あまりにも当たり前にできるので普段は気にも視効果が最も強くなります。このような錯視を「方位の錯視」と言います。

私たちが日常で接する物事は直角に交わる二線を含んだものがたくさんあります。ものを見るとは、あまりにも当たりたやすく、あまりにも当たり前にできるので普段は気にも

りります。一般的に有名なのは「ツェルナー錯視」です。一度は見たことがあるではないでしょうか。左図にある四本の横線は全て平行に並んでいますが、短い斜線群の交差によって横線は平行に見えません。横平行線と斜線群の角度が十度から三十度のときに錯視効果が最も強くなります。

「ツェルナー錯視」
2年6組 中村愛莉沙

里学園高等学校
書委員会
刷(株)川島印刷
L21-5511(代)

幾何學的 錯視

2年6組 由村愛莉沙

2年6組 由村愛莉

錯視

『ツェルナー錯視』

図書館だより

2012.12.21

(2)

三校合同 読書会

紫村 仁 著

「プシユケの涙」

7/30
米沢工業高校

×××××

二年二組 米山 未香

毎年恒例の三校合同読書会
が開催され、米沢商業、米沢
工業と交流してきました。

今年のテキストは紫村仁著
「プシユケの涙」です。恋愛
の要素も入っている青春ミス
テリー小説で、とても読みや
すい作品でした。とある女子の
子の死を中心に取り巻く物語
で、物語のはじめには、
××××××××××××
僕は×と×を×××××
のだ。

という隠された文章があり、
どういう言葉が入るのだろう
僕は×と×を×××××
のだ。
読書会の中では、「死ぬ間
際彼女がどのような事を思つ
て死んでいったのか」「命に
ついて」「死ぬ間際に彼女が
取り組んでいた未完成の絵。
どんな絵に完成させたかた
のか」「命の大切さ」などを
話しました。

読書会中、各校の生徒は最
終



1年5組

さくら ももこ 著
「そういうふうに
できている」

出産がテーマなので読書会では、事前に「自分の名前の由来」「小さい頃のエピソード」などを親にインタビューしました。当日、それらのインタビューを画用紙にペンを使ってカラフルにまとめました。

また、自分に子供ができるときにはどんな名前をつけるかなどを考えました。子供の名前を考えるのは

クラス読書会

6/20 (5・6校時)

3年4組

ドロシー・ロー・ノルト 著
「子どもが育つ
魔法の言葉」

私たちのクラスでは「子どもが育つ魔法の言葉」を読みました。この本は、親の気持ちを知り、将来自分が子供を持つたときに読んでもほしいという担任の思いから選ばれました。私は、この本を読んだ時は先のこと過ぎて実感がわきませんでした。しかし、読書会を終え、親への感謝の気持ちを持ち、いつか親になつたときに、また本を読んでみよう

と思いました。

読書会当日は、本のことについて話し合うのではなく、事前に子供の頃の写真二～三枚を見ながら名前の由来

私たちのクラスでは、さくらももこさんの「そういうふうにできている」を読みました。この本は、さくらさんの妊娠生活から出産した時の話がまとめられています。

難しく、みんなも苦戦していました。読書会中の雰囲気もよく、特に名前を考えるときはグループだけの中ではなく、周りの人とも話しあって楽しくできたと思います。

自分の名前は親が時間をかけて名付けてくれたもので、一生残るもの。今回の読書会で自分の名前を大切にしていきたいなと思いました。また、子供を産むことはどういうことなのかなどを深く考えさせられました。また、子供を産むことの大切さを改めて感じることができ、他にも学んだことがいっぱいありました。読書会をしてよかったです

図書館だより

2012.12.21

(4)

読書の楽しみ



小山田 努 先生

(商 業)

学生時代の読書ブーム

地区図書委員会
研修会 9/11

最近本を読んだことがあつたろうかと考えてしまうほど、普段から本を読む習慣が定着していない自分にまさか原稿依頼が来るのは思わず、戸惑っている。（恥ずかしいかぎりです）

ただ、こんな自分にも中学校にかけて読書アームがあつた。それは、宗田理さんが書いた「ぼくら」シリーズだ。映画化もされたので、知っている人もいると思うが、そのシリーズの一作目が「ぼくらの7日間戦争」という本だ。その本を読むきっかけは覚えていないが、その当時、登場人物が自分と同世代で、社会の悪や問題になっていることに対し、面白おかしく戦つて解決させていくところに

最近本を読んだことがあつたろうかと考えてしまうほど、普段から本を読む習慣が定着していない自分にまさか原稿依頼が来るのは思わず、戸惑っている。（恥ずかしいかぎりです）

魅かれていた。すでにシリーズの続編が発売されていたこともあり、次々と読んでいた。また、はつきりした記憶ではないが、一度読み始めると最後までとまらない勢いで読んだような気がする。

ところで、本を読むことは自分を育てる上で必要なことだと思う。考え方であつたり、理解力であつたり、いろいろと役に立つことがある。特に若い人たちには多くの本を読んでもらいたい。

さて、人にはかり勧めていないで、自分もこの機会に何か本を読んでみようかなと思ってきた。何かお勧めの本があるよという人は教えていただけないでしょうか……

名著の伝記 <その16>

「初恋」 ツルゲーネフ 著・神西 清 訳（新潮文庫）

初恋とはどんなものでしたか？はじめての恋で恋した相手に振り回されたのが「初恋」の主人公ウラジミールだ。ジナイーダがないないと、わたしは気が滅入った。何ひとつ頭に浮かんでこず、何ごとも手につかなかつた。わたしは何日もぶつつけに、明けても暮れても、しきりに彼女のことを思つていた。十六歳のウラジミールの隣に越してきた二十一歳のジナイーダ。彼女に夢中になり、翻弄される。彼女のまわりには、彼以外にも彼女に焦がれる青年たちがいた。彼らを振り回し、翻弄していくジナイーダだったが、あるとき彼女は恋をする。そのことを知った主人公は、彼女の恋する相手に嫉妬し、殺してしまおうと待ち伏せる。しかし、その相手とは彼の父親であった。その後主人公一家は、別の地へと引っ越しすが、父を追つてきたジナイーダの姿を見かけてしまう。あれほど慕う者たちは翻弄していた彼女も、恋をし、翻弄される。彼自身も恋をしながら、ジナイーダと父親の恋を見つめ、「これが恋なのだ」と恋を知り、心に深い傷跡を残す。叶わなかつた初恋のほろ苦さを感じさせ、いま切ない恋に悩む人にすすめる恋愛小説の名作である。



編集後記

今回レイアウトの担当となりました。みんなが読みやすいように考えて、上手にレイアウトすることができます。しかし、予定より遅い発行となってしまったので、次回は予定通り発行したいです。

（3年5組 半田侑里佳）

紹介でポップアップカードを作ることを学びました。今回学んだことを本校の委員会活動でも活かしていきたいと思います。本校では、掲示板などの本の紹介でポップアップカードを応用していくことができると思います。ポップアップカードによって、みんなの目を引く掲示を作り、図書館を明るくしていきたいです。